

# 探究的な学習の力をつける事例集（グループ調査・研究で身に付けてほしい力）

天草高校SSH研究部

## 1. 探究的な学習の力

【課題を設定する力】 課題を設定し課題意識を持つ

【情報を収集する力】 必要な情報を収集したり、取り出したりする力

【整理・分析する力】 収集した情報を、整理したり分析したりして思考する力

【まとめ・表現する力】 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する力

※この4つの力を意識し活動を繰り返すことで、課題解決ができるとともに探究的な力が身に付く。

## 2. 協働的な学習の力

【生徒間や地域の方と協働する力】 同じ目線で事象を考え、意見を出しながら協働する力

【専門家と協働する力】 専門知識を得ることで知識を確かなものとする力

【異文化の方と協働する力】 文化の異なる方々の価値観や習慣の違いを理解しながら解決を図る力

【考えが異なる人と協働する力】 自分と逆の意見の中から見える視点を理解する力

## 3. 体験活動を重視する姿勢

【実際に体験する力】 調べるだけでなく、体験することで確かな知識を得る力

## 4. 言語活動の充実

【専門的な言葉を覚え、他者にわかりやすく表現する力】

【グロービッシュを目指し、英語で発表する力】



## 【探究的な学習の力事例集】

学習課程	学習活動	ページ
課題の設定	事例①：体験活動を対比して課題を設定する	2
	事例②：シミュレーションで課題を設定する	2
	事例③：資料を比較して課題を設定する	3
	事例④：グラフを読み解いて課題を設定する	3
	事例⑤：ブレインストーミングで課題を設定する	4
	事例⑥：ウェビングマップで課題を設定する	4
	事例⑦：KJ法で課題を設定する	4
	事例⑧：ランキングで課題を設定する	5
情報の収集	事例①：アンケート調査で情報を収集する	5
	事例②：フリップボードで情報を収集する	5
	事例③：インタビューで情報を収集する	6
	事例④：電話で情報を収集する	6
	事例⑤：電子メールで情報を収集する	6
	事例⑥：図書館で情報を収集する	6
	事例⑦：インターネットで情報を収集する	7
	事例⑧：講演会やセミナーで情報を収集する	7
	事例⑨：フィールドワークを通して情報を収集する	7
	事例⑩：実験、観察を通して情報を収集する	7
	事例⑪：実習を通して情報を収集する	7

整理・分析	事例①：地図を使って整理・分析をする	8
	事例②：時系列表で整理・分析をする	8
	事例③：K J法で整理・分析をする	9
	事例④：ベン図で整理・分析をする	9
	事例⑤：メリット・デメリットの視点で整理・分析をする	9
	事例⑥：ビフォー・アフターの視点で整理・分析をする	9
	事例⑦：マトリックス表・二次元表で整理・分析をする	10
	事例⑧：Yチャートで整理・分析をする	10
	事例⑨：ロジックツリーで整理・分析をする	10
	事例⑩：グラフを作って整理・分析をする	11
	事例⑪：統計的手法で整理・分析をする	11
	事例⑫：フィッシュボーン（特定要因分析）で整理・分析をする	12
	事例⑬：ウェビングマップ（イメージマップ）で整理・分析をする	12
	事例⑭：バタフライチャートで整理・分析をする	12
	事例⑮：クラゲチャートで整理・分析をする	13
まとめ・表現	事例①：レポート、論文としてまとめ・表現する	13
	事例②：新聞としてまとめ・表現する	13
	事例③：ポスターとしてまとめ・表現する	14
	事例④：プレゼンテーションとしてまとめ・表現する	14
	事例⑤：ウェブページとしてまとめ・表現する	14
	事例⑥：まとめ・表現のシンポジウムを行う	15
	事例⑦：地域社会に向けて報告会を開く	15

## 課題の設定

### 事例①：体験活動を対比して課題を設定する

「町山口川の上流と下流のフィールドワーク」「天草市と上天草市、苓北町の現地調査」など、比べて考えるような体験活動を行うことで「どこが違うのか」「どうして違うのか」などの問題に気付き、課題へと高めます。

#### 【ポイント】

- 対比の視点としては、過去との対比（時間軸）、他地域との対比（空間軸）などが考えられます。
- 調査前に予想を立てることで、調査後の現実の姿との「ずれ」に気付きやすくなります。
- ICTを活用し、必要に応じてカメラやビデオ、ICレコーダーなどを活用し記録すると効果的です。

### 事例②：シミュレーションで課題を設定する

シミュレーションを実際の場面を想定して行うことで、起こり得る問題状況を明らかにし、課題を設定します。最近ではコンピュータシミュレーションも主流となってきています。可能性を幅広く、複数の視点でシミュレーションすることが大切です。

### 事例③：資料を比較して課題を設定する

資料を比較するときにも、複数の資料を提示し比較することで疑問が生まれやすくなります。資料の違いや共通点からその原因を予想するなどして課題を明らかにします。

#### 【ポイント】

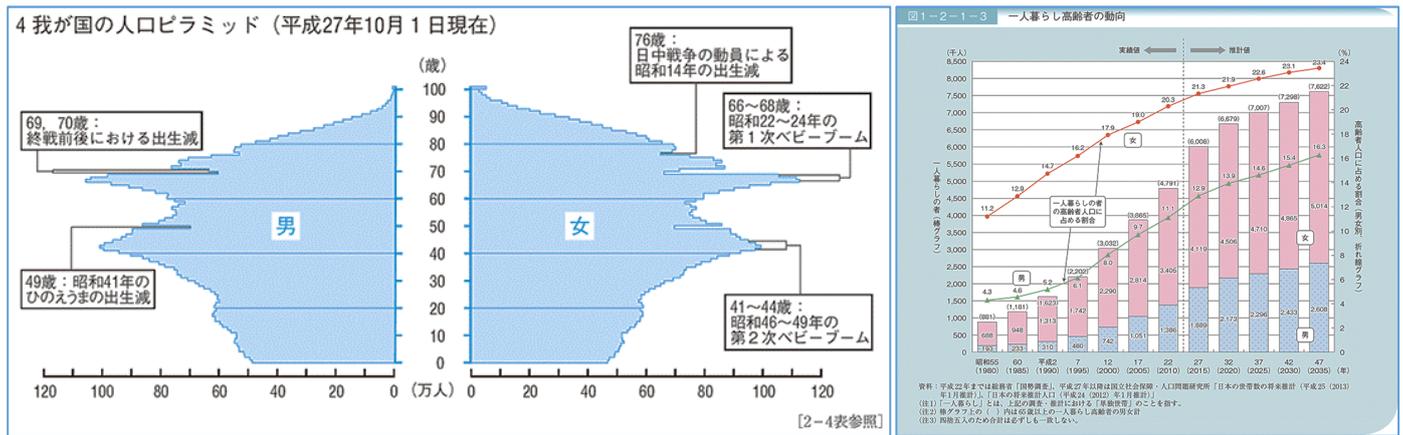
- 予測と実際のデータとの「ずれ」や「隔たり」が生じるような統計資料を準備します。
- 複数の統計資料からデータを比較したり、自分自身の体験と関連付けたりして考えるとともに、話し合いによって他者の読み取り方を参考にすることも大切です。

### 事例④：グラフを読み解いて課題を設定する

グラフなどの統計資料の推移などに着目することで、調査対象の今後を予測したり、調査対象の特徴から問題点を見出したりすることができます。統計資料の読み取りを根拠に課題を明らかにします。

#### 【人口構成と高齢単身世帯数の特徴から分かることを考え課題を設定する】

- ① 人口構成と高齢単身世帯数の特徴をグラフから読み取ります。
  - ・「グラフからいえることは何か」
  - ・「全体的にどのような傾向があるか」
  - ・「それぞれの特徴はどこにあるか」
  - ・「2つの事柄の関連はどのようなものか」



(※内閣府HPより抜粋)

- ② 各自で課題を明らかにします。
  - ・「65歳以上人口、割合が増加するのとあわせて、高齢単身世帯数も増加しているのはなぜか」
  - ・「〇〇市の1人暮らしの高齢者が増加している原因は何か」
  - ・「〇〇市において少子高齢化が進むことで生じる課題は何か」
- ③ 関連して調査する必要がある項目はあるか考えます。
  - ・「核家族の世帯数の推移はどうなっているか」
  - ・「出生率の推移はどうなっているか」



### 事例⑤：ブレインストーミングで課題を設定する

テーマについて自由に話しながらアイデアを出し合うことで、新しい気付きを得ることができます。自由な意見交換のムードを醸成すれば、より柔軟に発想が広がり、課題を設定することにつながります。

ディスカッションと違い、参加者の発想やアイデアを自由なムードの中で出し合うことを目的に行うことがポイントで、協同的なムードを作り出すことに効果的です。

#### 【ブレインストーミングの3つのルール】

- ① 批判厳禁・・・他のメンバーのアイデアは批判してはいけない
- ② 質より量・・・アイデアの質を求めるのではなく、量を求める
- ③ 便乗歓迎・・・アイデアの付け足しや発展を歓迎する

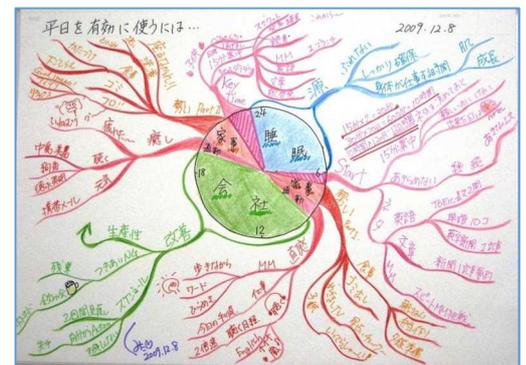
※ブレインストーミングでの気付きや発見、疑問や問いなどをカードや付箋紙に書いて出し合い、KJ 法的な手法などにつなげることができます。

### 事例⑥：ウェビングマップで課題を設定する

ウェビングマップを作成しイメージを広げることで、テーマを多面的に捉えたり、細分化して具体的に捉えたりしながら課題を見出していくことができます。

#### 【ウェビングマップの作成法】

- ① 中心テーマを書き込みます。
- ② テーマから連想すること、関連することを書き込みます。
- ③ 同じ内容を線で囲み、関連のあるキーワードを線でつなぎます。  
重要だと思うところには印を付けます。
- ④ 周囲の考えと比較しながら課題を明らかにします。



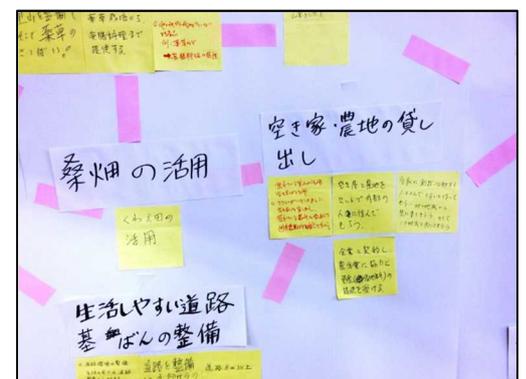
(※平日を有効に使うには)

### 事例⑦：KJ法で課題を設定する

体験活動や調査によって得られた気付きや疑問を、定形のカードや付箋紙に書き出し類型化することで、課題の本質や核心が明確になり課題の設定が容易になります。KJ 法的な手法は学習過程の整理・分析等様々な場面で活用できます。

#### 【KJ法の方法】

- ① 天草が抱える問題について聞き取り調査をします。
- ② 調査結果を、カード（付箋紙）に転記します。1つのカード（付箋紙）に情報は1つ書きます。
- ③ カード（付箋紙）を並べ替えてまとまりを作ります。
- ④ まとまりごとにタイトルを付けます。
- ⑤ タイトルを基に話し合い、課題を選定します。



## 事例⑧：ランキングで課題を設定する

体験活動や調査活動を通して疑問に思ったことや調べていきたいことについて、特定の基準を決めて並べ換えることで、より現実的な課題を設定します。

### 【ランキングの方法】

- ① 調査から考えた課題をカード（付箋紙）に書き出します。
- ② 自分たちが実行できる可能性が高いものから低いものに並べ換えます。
- ③ 今すぐに実行できそうなことから、時間がかかるものに並べ換えます。
- ④ ③と④2回の操作から、自分たちが今すぐできる課題を決定します。

※基準には「実現可能性」「社会的価値」「テーマとの整合性」などの視点が考えられます。

## 情報の収集

### 事例①：アンケート調査で情報を収集する

アンケート調査は、多くの人の意見を集めて、その傾向を知りたいときに行います。聞きたいことを端的にし、答えやすい簡単な質問を用意することで、多くの人からのデータ収集が可能になります。また、質問の仕方や質問する相手によって結果が異なってくるので、アンケートをとる前に計画を立てることが大切です。

### 【アンケート調査用紙の作成例】

天草市の観光の活性化を推進するためのアンケート

- ① どちらからお越しですか？  
（ ）県（ ）市・町・村
- ② 何回目の訪問ですか？  
初めて（ ）回
- ③ 天草市の魅力は何ですか？  
自然 温泉 食べ物 文化 レジャー施設
- ④③を魅力だと考える理由を具体的に教えてください。
- ⑤ 天草市にあったらよいと思うものはなんですか
- ⑥ お気に入りの店があったら教えてください。

ありがとうございました。

天草高校 1年 地域おこし班

※「調査の目的や調査の対象を明確にする」「短く、分かりやすい質問文にする」「短時間で回答できるように、質問項目を精査する」「単純な質問から意見を問う質問へ移っていく」など用紙を作成する際には留意します。

### 事例②：フリップボードで情報を収集する

フリップボードを提示してインタビューする方法は、質問内容が伝わりやすいだけでなく、言葉と併用できるため、確実な情報収集にもつながります。また、短時間で回答が得られるため、相手に迷惑をかけずに済むこともメリットの一つです。

※集計表をフリップボードと一体化しておくなど、集計の方法についても確認しておくことがポイントです。



※男女や年齢別で分ける

### 事例③：インタビューで情報を収集する

インタビューのポイントをおさえ、インタビュー活動の準備を計画的に行うことで例えば、専門的な立場の人の知識や経験、努力や工夫など、必要な情報を相手から直接得ることができます。

#### 【インタビューの手順】

- ① インタビュー協力のアポイントを取り、了承を得たら謝意を伝えます。
- ② 自己紹介をします。
- ③ インタビューの目的とおよその時間を説明し理解を得ます。
- ④ インタビューを始めます。その際には、適切にメモや映像を通して記録を残しておきます。テープレコーダーやビデオカメラなどの機器を使用する場合は、事前に相手の了承を得ましょう。貴重な機会ですから疑問の点はその場で確認しましょう。予想しない展開にも臨機応変に対応できるよう事前準備を行いましょう。
- ⑤ インタビュー後のお礼を必ず伝えます。

※訪問前にインタビューメモを作成し、内容を吟味し検討します。また、インタビュー前に、訪問先に趣旨を伝え、事前に連絡調整を行います。

※調べ学習をした後でインタビューする際には、事前に調べた情報源を必ず明らかにしておきます。その情報源を問われることも多いです。

### 事例④：電話で情報を収集する

電話を活用した情報収集を行うことで、様々な立場の人から課題解決に必要な情報を集めることができます。見えない相手に対してよりよく情報を収集するために事前準備が必要です。

※手順はインタビューと同様です。より言葉遣いには気をつけましょう。

### 事例⑤：電子メールで情報を収集する

電子メールを活用した情報収集を行うことで、様々な立場の人から課題解決に必要な情報を集めることができます。電子メールのメリットは、回答結果がデジタル化されている点や直接会うことが難しい相手から必要な情報を得ることができる点などにあります。

#### 【注意点】

- 表題が内容を端的にまとめているものか、始めに宛先、最後に自分の名前が書いてあるかを確認します。
- ウィルスへの注意のため、知らない人からのメールは開かないようにします。
- プライバシーの保護の観点を持ち、両者の個人情報を載せないようにします。

### 事例⑥：図書室や図書館で情報を収集する

探究的な学習において生じる多様な疑問の解決のために、学校図書館や公立図書館での情報収集は有効です。豊富な蔵書の中から目的に合った書籍を見つけ活用したり、過去の新聞、雑誌や学術資料などを利用することも効果的です。

#### 【本の分類】

総記・哲学・歴史・社会学・自然科学・技術・工学・産業・芸術・美術・言語・文学・自然科学・数学・物理学・化学・天文学・宇宙科学・地球科学・地学・生物化学・植物学・動物学・医学・薬学

#### 【ポイント】

※「書籍名」「作者名」「出版社名」「新聞ならば、発行日」「書籍ならば、刊行された年月」をメモしておきます。

### 事例⑦：インターネットで情報を収集する

多様な疑問に対して瞬時に情報を検索できるインターネットは便利です。検索の方法やウェブページの特徴を理解することで、膨大な情報の中から目的に応じた情報を適切に取り出すことができます。

#### 【ポイント】

- 情報の信憑性に気を付け、情報が確かな情報であるかどうか判断するとともに、基礎データが提供されたウェブページを活用することも考えられます。
- 必要な情報を簡単に入手できる反面、著作権等へも十分配慮することが大切です。
- 情報化社会において適切に判断し、行動することのできる情報モラルを守りましょう。
- インターネットで調べるだけに止まらず実際に調査活動を取り入れるなど、確かな情報とするよう心掛けましょう。

### 事例⑧：講演会やセミナーで情報を収集する

専門家の体験や研究成果などを直接聞くことで、情報を収集することができます。

メモをとり、講演後に情報をまとめておくと効果的です。



### 事例⑨：フィールドワークを通して情報を収集する

フィールドワークは、設定した課題に即した場所を訪れ、現地で探索、採集、取材などをして具体的な情報を得るための方法です。

#### 【フィールドワークの進め方】

- 調査する場所と規模を決定→調査の方法や内容を検討→現地に行って、情報を収集
- ※映像や音声で記録を残す際に、ICT 機器を効果的に活用します。

### 事例⑩：実験、観察を通して情報を収集する

科学的な方法による実験・観察を通して、客観的なデータを手に入れ、自分の考えを確かにするだけでなく、自分の考えを説得力のある提案へと高めることができます。

#### 【ポイント】

- 現象を原因と結果の関係でみるため表などにまとめ、データに基づいて分析・考察します。
- 測定は、何度も行い平均値を求めるなど、データの信憑性を高めます。

### 事例⑪：実習を通して情報を収集する

実習を行うことで、実際に自分自身で見たり聞いたり感じたりした情報を得ることができます。

#### 【ポイント】

- 体験から得られた実感を伴った情報を大切にします。
- 実習の際の感想や気付きなどを適宜記録として残しておきます。
- 事実と感想は区別して記録に残しておきます。

## 整理・分析

多様な方法で収集した情報を、整理・分析し、思考することが最も探究的活動で重要視されています。収集した情報を種類ごとに分類したり、細分化して因果関係を導き出したり、批判的・複眼的な視点で分析したりすることで、思考することにつながります。

- どのような情報が、どの程度収集されているかを把握します。
- どのような方法で情報の整理・分析を行うのかを決定します。
- 「比較して考える」「分類して考える」「序列化して考える」「関連付けして考える」などを意識します。
- 収集した情報を、様々な考え方 (Process) によって整理・分析し、自らの考え (Product) を明らかにしていく過程は、まさに思考力を発揮する場面であり、こうした学習活動こそが、創造的思考力や批判的思考力、協働的思考力など、社会に出てからも有用となる思考力を育成できます。

### 事例①：地図を使って整理・分析する

調査・収集した情報をマップに整理することで、事実関係を把握したり、傾向や偏りを捉えたりして分析することに役立ちます。ポスター発表やプレゼンテーションの際の導入にも活用できます。

【地図でまとめると効果的な例】

「生物・植物の分布」「観光地や歴史」「特産品や方言など」

【ポイント】

- 調査ポイントを複数設け、異なる情報を収集するようにします。
- 地図上にはシールなどで調査数を表現する方法や数値化された情報をグラフなどで表現することもできます。また、写真や図などのような質的な情報を表現することも考えられます。



### 事例②：時系列表で整理・分析する

調査・収集した情報を時系列に整理することで、変化や転換点に気付いたり、到達点や手順を明らかにしたりすることにつながることができます。特に、過去との比較を行う際に有効です。

- ① 古地図や文献、聞き取りなどによって情報を収集します。
- ② 得られた情報をカードに書き出し、時系列に並び替えます。
- ③ 変化の傾向を把握します。

時系列表		
日時	出来事 (箇条書きで)	備考
(例) 4.1.12:00	私は、天草市役所農業振興課を訪れ、〇〇様と天草の農業課題について話しました。	資料など

### 事例③：KJ法で整理・分析する

P4 課題の設定 事例⑦参照

### 事例④：ベン図で整理・分析する

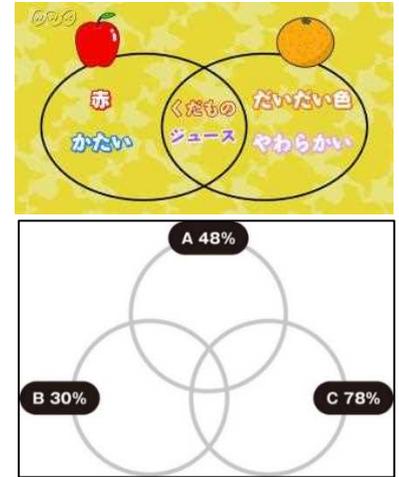
複数の事実、考え、意見などについて共通点と相違点の両方をリストアップして整理するツールです。

#### 【ベン図作成の仕方】

- ① 比較する対象を円の上部に書き込みます。
- ② 2円が重なっていることを中央に、それぞれのみ能说ることを両側に書き込みます。
- ③ 図を見て、比較するような文章にまとめていきます。

#### 【ポイント】

※特に、3つの比較対象を比較する際に、ベン図は効果的です。



### 事例⑤：メリット・デメリットの視点で整理・分析する

課題解決のためのアイデアや方法、提案をすぐに実施するのではなく、メリットとデメリットの両面から吟味することで、より質の高いアイデアや方法へと高めていくことができます。アイデアの根拠も明らかになります。また、シートなどに書き込み、アイデアについての問題点を指摘したりよさを発見したりするなどの思考の場があることによって、アイデアの質を高め、アイデアを共有していくことにつながります。また、批判的な視点や建設的な視点をもつことも大切で、メリットとデメリットのどちらが多いかでアイデアのよさを判断することも考えられます。

### 事例⑥：ビフォー・アフターの視点で整理・分析する

情報を収集する前後で見方や考え方が変わることが頻繁にあります。「ビフォー・アフター」で振り返ることで、自らの変容を自覚してとらえることができるようになります。これは自己評価の力にもつながります。

#### 【ポイント】

- 自分の変化や成長、その時の思いを記録しておきます。比較することで成長の実感を自覚できます。
- 振り返りの視点を明確にしておくこと、事前と事後での比較がしやすくなります。対応させながらまとめていき、自己の成長を確かめるようにします。

**事例⑦：マトリックス表・2次元表で整理・分析する**

集めた情報を2つの尺度で整理することで、多面的に考察できます。

【横軸と縦軸を利用して象限にわけける例】



【表を作成してまとめる例】

	兄がいる	兄はいない
姉がいる	●舞 ●次郎 2名	●璃子 1名
姉はいない	●涼介 ●太郎 4名 ●瑞紀 ●さき	●啓太 ●ゆい ●ひな 3名

【作成上の注意】

- 尺度は「時間」「効果」「実現可能」「緊急性」「経済」「安全」などがあります。
- 尺度を設定しておいて分析する方法もあるが、設定する尺度自体を考えることも大切です。

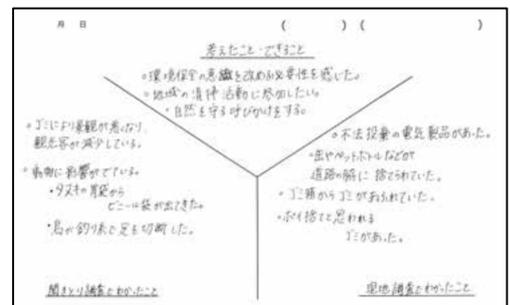
**事例⑧：Yチャート・Xチャート・Wチャートで整理・分析する**

対象について多様な視点で整理することで、収集した情報を多角的に分析することにつながります。視点に書き出されたことを基にして、感想文やレポート、発表原稿などにまとめる際に役立ちます。

※Yチャートは3つの視点、Xチャートは4つの視点、Wチャートは5つの視点を設定できます。

【Yチャートの作成法】

- ① 書き込みが十分にできるよう十分な大きさの用紙を準備します。
- ② 「気付いたこと」「疑問に思ったこと」「一番印象に残ったこと」「構成から感じたこと」「見たもの・聞いたこと・さわったもの」などの視点を準備し、それぞれ書き込みまとめます。

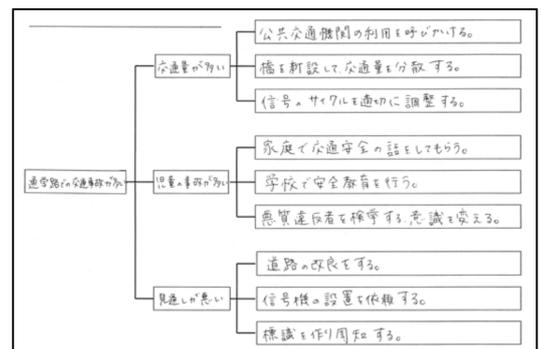


**事例⑨：ロジックツリーで整理・分析する**

解決すべき課題について、論理的に整理・分析するときには有効な方法です。物事には「全体と部分」「原因と結果」「意図と行為」「目標と手段」という構造があるため、それらの関係を論理的に樹形図のように書き表したものがロジックツリーということになります。

【作成のポイント】

- ① 一番左に課題を書き込みます。
  - ② そこから考えられることを書き込みます。
  - ③ さらに、一つずつに対して考えられることを書き込みます。
- ※1回目の枝分かれは大まかに、2回目は原因を、3回目は解決策をとった視点を明確にしておけば効果的です。



## 事例⑩：グラフを作って整理・分析する

調査・収集したデータをグラフなどの目に見える形で整理・分析することで、事象の特徴を客観的に捉えたり、事実や関係を把握したりすることに役立ちます。また、情報を客観的に整理するため、ポスター発表やプレゼンテーションの際の明確な根拠とできます。

### 【それぞれのグラフの特徴】

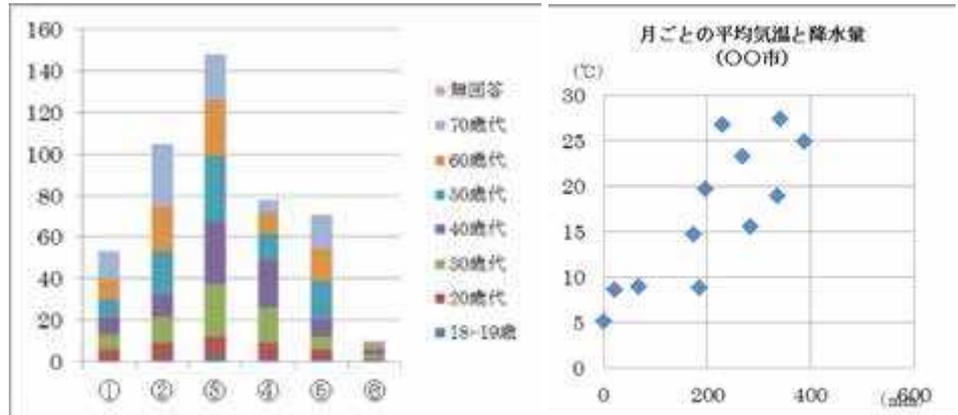
○度数分布表→各階級のまとまり具合をはあくすることに向いています。正規分布や二極化などもわかります。

○折れ線グラフ→あるテーマの過年度推移に向いています。

○円グラフ→割合を視覚的に整理することに向いています。

○相関図→多くのデータを2つの事柄で整理し散らばり具合を把握することに向いています。

※複数の事象を関連させて考えるために、グラフを統合するなどの工夫が考えられます。



## 事例⑪：統計的手法で整理・分析する

調査・収集したデータを統計的な手法で整理・分析することで、事象の特徴を客観的に捉えたり、事実や関係を推測したりすることに役立ちます。

### 【実践例1 ゴミの分別についてのアンケートを分析する】

- ① 全てのアンケートを表計算ソフトでデータ化する。
- ② 2つの項目を軸にとって表形式に集計し、グラフで表す。(クロス集計)
- ③ 2つの項目の関係について分析する。

### 【実践例2 気温と降水量について計測データを分析する】

- ① 調査したデータを表計算ソフトでデータ化する。
- ② データの散らばりを散布図で表す。
- ③ 2つの指標の相関の強さを分析する。

### 【ポイント】

- 検証・分析の結果、事実や関係を推測するために情報が十分でない場合は、情報の収集を再度行います。
- 項目間の関連性の強さを数値で表すことで、客観的に比較することができます。
- 得られた結果を基に、母集団における平均値などを推測することができます。

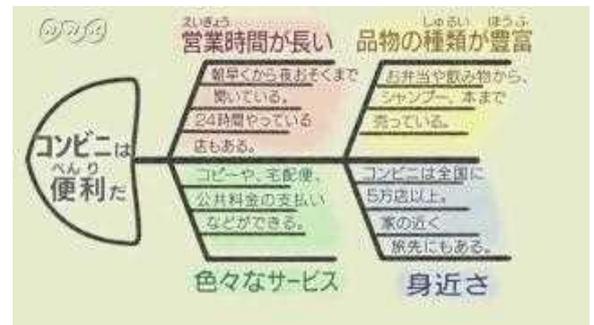
## 事例⑫：フィッシュボーン（特定要因分析）で整理・分析する

頭の部分に置いた課題に対して、どのような要因や原因が関係しているのか可能性のあるものを中骨の所に書き出して、より具体的に細分化したものを小骨に書き込みます。このように原因を細分化し、それぞれに対する対応策を考えることで、解決できるものと解決できないものを整理する眼のツールです。

### 【利用手順】

- ① 課題を頭書き込みます。
- ② その課題の要因と考えられるものを中骨に書き込みます。制度や方法、設備、時期などを書いておきます。
- ③ それぞれの要因について具体的にしたもの小骨の部分に書き込みます。
- ④ それぞれを変えることができるのか変えられないのかを検討し、さらには変えられるならどのような対策が可能かを検討して解決策を提案します。
- ⑤ 解決策を実際に実践してみると、さらに深まります。

※ブレインストーミングで自由にアイデアを出し合い、それをKJ法的手法で大きくまとめ、フィッシュボーンで因果関係として整理することが考えられます。

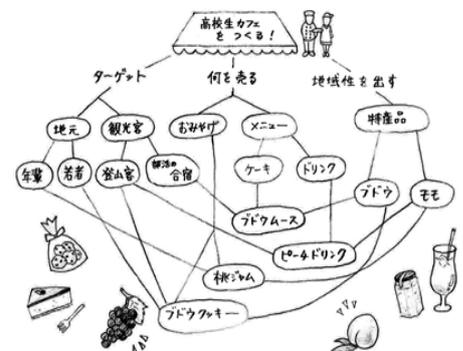


## 事例⑬：ウェビングマップ（イメージマップ）で整理・分析する

特定の考えに固定され、アイデアが広がらないときに使うツールです。ブレインストーミングを視覚的に行うものと言い換えても良いでしょう。自由に発想してでてきた考えを線で結んだり、○で囲んだりすることで概念と概念の関係性を考えて表題を付けます。

### 【ウェビングマップの作成法】

- ① 中心に考えを広げるトピックを書き込みます。
- ② 中心のトピックに関係があると考えられることを周りに書き込み関係性を見て線で囲みます。
- ③ さらに関係があることを周りに書いて線を広げていきます。
- ④ アイデアが十分に出たらマップを書き直したり、別のツールにまとめることも考えましょう。



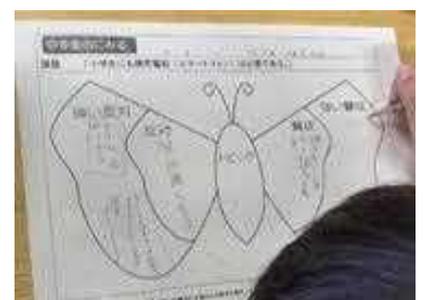
※概念と概念を結ぶ線はあくまで仮説であるため、検証は別に行うように注意しましょう。

## 事例⑭：バタフライチャートで整理・分析する

中央に書いたトピックについて、賛成、反対、強い賛成、強い反対の意見を持つ人の気持ちになって、その意見と理由を書き込みます。賛否両論や、その強弱にも目を向けることができるツールです。

### 【利用手順】

- ① 課題を胴体部分に書き込みます。賛否の判断ができる内容がベストです。
- ② 課題に対する情報を集めます。その際に、賛成意見と反対意見両方を集めるように意識します。
- ③ 集めた情報を「賛成」「反対」「強い賛成」「強い反対」に整理します。
- ④ 整理した状態で自分の意見がどちらよりかを決定します。
- ⑤ 自分の意見と、賛否両論を照らし合わせながら考えをまとめます。





- 見出しは要点を7～10文字くらいで表現すると読みやすくなります。
- トップ記事は紙面で1番目立つ右上に配置します。
- 図や表を効果的に利用します。
- 是非読んでほしい記事は罫線で囲む「囲み記事」にすると目立たせることができます。

### 事例③：ポスターとしてまとめ・表現する

ポスター形式でまとめ、ポスターセッションを行うよさは、発表者と聞き手の間に密度の濃いディスカッションが期待できる点です。

#### 【ポスターの作成法】

- ① 明確で聞き手にとって魅力的なタイトルを付けます。
  - ② 要旨を端的に表現します。
  - ③ 文字のみならず、図表を有効に活用します。
  - ④ 実演や展示を効果的に組み合わせます。
- ※説明の際には、設定時間を意識します。

### 事例④：プレゼンテーションとしてまとめ・表現する

コンピュータを使ったプレゼンテーションを行います。文字、写真、イラスト、動画、グラフ等を活用した表現が可能であり効果的な発表ができます。

#### 【プレゼンテーションのポイント】

- ① 1枚のスライドの情報量を多くしすぎないように注意します。
- ② 色の使い方や文字の大きさ等、見やすさに配慮します。
- ③ グラフや図等を効果的に用います。
- ④ アイコンタクトや聞き手とのコミュニケーションを適切に行います。
- ⑤ ボディーランゲージを工夫します。
- ⑥ 聞き手側に立った発表を行います。
- ⑦ リハーサルを行いながら、班員と相互評価等を行い改善します。
- ⑧ 発表後に、発表を振り返ります。



### 事例⑤：ウェブページとしてまとめ・表現する

世界に向けて自分たちの成果を発表するために、ウェブページを活用します。また、ウェブページは更新することで常に最新の情報を提供することが可能です。発信の際は、著作権、肖像権、個人情報等、十分に配慮する必要があります。

#### 【ウェブページをつくる流れ】

- ① 何をどのように伝えるか、方針を決定します。
- ② 全体構成を検討します。
- ③ メニューと階層を考えます。
- ④ 著作権と肖像権等、許諾申請及び了解を得ます。
- ⑤ ウェブページを作成します。
- ⑥ 関係者にウェブページを実際に見てもらい、確認と許可を得ます。
- ⑦ 公開し、更新作業をします。

## 事例⑥：まとめ・表現のシンポジウムを行う

新たな知識を獲得したり、思考を深めたりするためには、発信者が決められたテーマについて発言し、その後、聴衆（参加者）が質問や意見を出し合い、新しい考えを発見する「シンポジウム」などの方法を活用することが考えられます。

### 【シンポジウムの進行方法例】

- ① 司会がテーマについて説明します。（約1分）
- ② シンポジストが自分の意見を発表します。（約1～3分）
- ③ 司会が対立している点をまとめ、それについてシンポジスト同士が議論します。（約10分）  
（\*反対意見に対しては建設的な意見で反論します）
- ④ 議論が一段落ついたら、司会は会場から質問を受けます。（約5分）
- ④ 最後に各シンポジストが言い残したことやまとめたことの意見を発表します。（約1分ずつ）

## 事例⑦：地域社会に向けて報告会を開く

広く社会に向けて報告することによって、地域貢献を果たします。

### 【ポイント】

- 報告会では調査、研究の手法を説明します。
- 報告会の内容については、専門家や有識者等の助言を受けておきます。
- 説得力のある資料を提示します。
- 報告会での表現方法を班員と検討しておきます。

